

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：21201

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13958

研究課題名（和文）大都市在住高齢者によるボランティア活動を促進する活動年数別による支援内容の検討

研究課題名（英文）A study of support by years of activity to promote volunteer activities by senior citizens living in major city

研究代表者

本間 萌（Honma, Megumi）

岩手県立大学・社会福祉学部・講師

研究者番号：50767960

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：地域で活動する高齢者を対象とした質問紙調査から、地域活動における経験を活用したフォローアップ研修の必要性と専門職による支援の必要性が課題として挙げられた。専門職へのインタビュー調査からは、高齢者の活動を支援する仕組みとして、段階を追って具体的に活動のなかでどのようにふるまえばよいか知識と体験の面から学習の場を設けていた。段階を設けることは、新たに派遣される高齢者にとっては気持ち準備ができ、モチベーションを高めることへとつながっていることが推察された。加えて、継続のためには経験を共有するだけでなく、新たな知識を獲得することが高齢者にとって重要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢期にはさまざまな課題が生じる一方で、それまで培ってきた知恵や経験を活かすことができれば高齢者自身や地域社会にとっても意義がある。そのためには活動意欲があるときに活動につながるための拠点や段階的に学び、活動への準備ができる仕組みが必要とされる。本研究は高齢者の社会参加を支える仕組み作り

研究成果の概要（英文）：Two issues were identified from the survey of elderly persons active in the community. The first is the need for follow-up training based on their experiences in community activities, and the second is the need for support by professionals. Interviews with professionals revealed that the system to support the elderly in their activities included a step-by-step learning process to provide them with the knowledge and experience of how to behave in specific activities. It can be inferred that the step-by-step process helps newly dispatched elderly people to feel prepared for the activities and motivates them to continue. In addition, it was suggested that it is important for the elderly to acquire new knowledge as well as to share experiences in order to continue the program.

研究分野：社会福祉学

キーワード：高齢者ボランティア 大都市 活動上の課題 段階的な支援 知識と体験に基づく学習 定期的なフォローアップ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

高齢者の社会参加は高齢者自身の健康維持や介護予防、認知症予防との関連が明らかにされている。高齢者にとって社会参加は、身体的、精神的、社会的にもよい影響をもたらすものである。桜井政成(2005)によれば、高齢者によるボランティア活動の継続要因について、利他的な動機よりもボランティア活動を通してさらなる自己成長を期待している者の方が継続していると指摘している。その一方で、高齢期という特徴を踏まえると、ボランティア活動を継続したい意向があっても、他世代と比較すると急激な身体的、精神的、社会的な変化を伴う可能性の高い高齢期において、ボランティア活動を継続することが難しい者も少なくない。さらに、社会参加の継続要因については居住年数や地理的要件との比較検討がされている。岡本秀明(2012)や片桐恵子(2012)、河合恒ら(2013)の研究成果から、居住年数が長いものの方は参加が多く、居住年数が5年未満のものは参加に至りにくいことや定年後に転居したものについても社会参加が困難であることが明らかにされている。

2. 研究の目的

本研究は、大都市在住高齢者のボランティア活動を促進するため活動上の困難を把握し、必要とされる支援内容と課題を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

対象者は2016年～2018年度までにA市の講座を修了した者631名である。調査の実施にあたっては、2019年11月に質問紙一式を活動拠点より配付し、配付に重複が無いよう手渡した者は職員により一覧に記録してもらった。調査期間中の配付者数は416名であった。回答後は返信用封筒に入れポストへ投函してもらい、2019年11月～2020年1月までに返送があったものを分析対象とした。329名の返送があり回収率は79.0%であった。質問項目は、基本属性、研修受講年度、居住区、居住年数、登録区、介護経験の有無、活動頻度、回想法に関する項目、地域活動の目的、地域活動における困難、地域活動による達成度である。

活動を継続する高齢者および活動を支援する専門職を対象としたインタビュー調査のインタビュー項目は次の通りである。高齢者に対しては、活動の動機、活動の継続理由、ともに活動する高齢者の存在、専門職に期待することの4点をたずねた。専門職には担当地域および居住する高齢者の特徴、担当者となった頃から現在までにおこなってきた具体的支援内容、

支援に関して、意識している点およびその理由をたずねた。実施にあたっては、文書にて調査目的および方法を説明し、同意書を取り交わしたのち、ICレコーダーにて録音し実施した。録音データは逐語録を作成し、分析をおこなった。

調査の実施にあたっては日本福祉大学「人を対象にする研究倫理審査」(申請番号19-19)の承認を得た。

4. 研究成果

1) 地域活動における困難

回答が多かったのは「難聴のある参加者の方への対応が難しい」が30.4、次いで「認知症のある参加者の方への対応が難しい」26.1%であった。「新しい参加者が増えない」「認知症予防リーダーの活動が市民に理解されているかわからない」など自分たちの活動の地域社会への影響に関する項目が高い傾向にあった。派遣される人数や活動場所、活動時間など派遣方法に関する項目は低い傾向にあった。

2) 専門職による支援

専門職が高齢者の地域活動を支援する際、地域で活動するまでにステップを設ける、新たな知識を獲得できる学習の場を定期的に設ける、地域活動の参加者の感想を具体的な言葉でフィードバックする、という点が共通してみられた。高齢者が地域のサロンなどへ派遣されるまでの準備段階として、施設内でおこなわれる認知症予防教室などの場を活用し、地域での活動がイメージできるよう練習の場を設けていた。そして、派遣にあたってははじめて派遣される者と経験のある者をペアにし、経験の継承ができるようにしていた。さらには、参加者からの感想を意識的に活動する高齢者に伝えることによって、次の活動への意欲を高めるかわかりがされていた。

専門職は、段階を追って具体的に活動のなかでどのようにふるまえばよいか知識と体験の面から学習できるよう仕組みを作っていた。段階を設けることは、新たに派遣される高齢者にとっては気持ち準備ができ、モチベーションを高めることへとつながっていることが推察された。加

えて、継続のためには経験を共有するだけでなく、新たな知識を獲得することが高齢者にとって重要であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 本間 萌	4. 巻 24
2. 論文標題 高齢者ボランティアに関する文献レビュー 日本における高齢者ボランティアを対象とした介入研究の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩手県立大学社会福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 89-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 野村豊子編集代表 伊波和恵・内野聖子・菅寛子・萩原裕子・本間萌編集	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央法規	5. 総ページ数 220
3. 書名 ケアの現場・地域で活用できる 回想法実践事例集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------